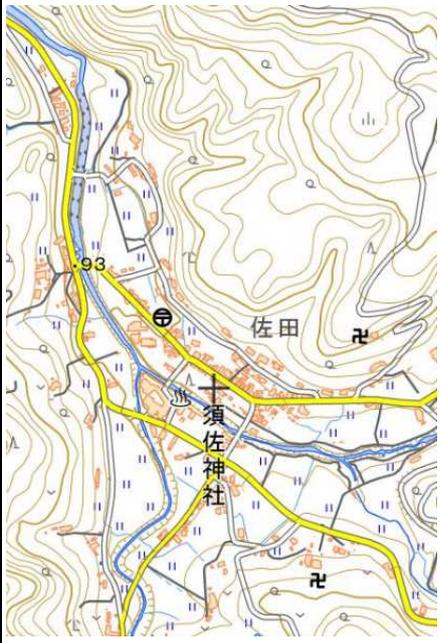


# 歴史・文化サイトカード

|        |   |   |  |           |
|--------|---|---|--|-----------|
| 通しNo.  |   | 1-C-10  | 更新日  | 2025/2/10 |
| サイト名   |   | すさのおのみこと まつ 須佐之男命を祀り大杉が守護する古社～須佐神社 <small>すさ</small>  |  |           |
| 基本情報   | 区分  | <input checked="" type="checkbox"/> 有形 <input type="checkbox"/> 無形 <input type="checkbox"/> その他   |    |           |
|        | 所在地   | 出雲市佐田町須佐730番地   |  |           |
|        | 指定別   | 「須佐神社本殿」 県指定  |  |           |
|        | 種別  | 有形文化財・建造物   |  |           |
|        | 指定／登録年月日  | 1966(昭和41)年5月31日  |  |           |
|        | 管理団体／モニタリング   | 須佐神社  |  |           |
|        | 周辺施設／アクセス   | <input checked="" type="checkbox"/> トイレ <input checked="" type="checkbox"/> 売店 <input checked="" type="checkbox"/> 飲食店 <input checked="" type="checkbox"/> 駐車場(20台程度)<br>／松江道三刀屋木次ICから車で約30分・JR出雲市駅からバスで約40分「出雲須佐停留所」下車後約3km  |  |           |
| 留意点    |   |   |  |           |
| サイトの解説 | 歴史・文化   | <p>各地を開拓した須佐之男命(すさのおのみこと)が最後に開拓した地に造営された御魂鎮めの御社とされる。須佐之男命が「この国は小さい国であるがよい地であるのでこの土地に自分の名をつける」としたため須佐の地となったと『出雲国風土記』に記されている。風土記には「須佐社」、『延喜式神名帳』には「須佐神社」と記載され、小社に列している。中世には「十三所大明神」「大宮大明神」、近世には「須佐大宮」と称された。1871(明治4)年に「須佐神社」に改称し、1872(明治5)年に郷社に列格し、翌1873年(明治6年)に県社に、1900(明治33)年に国幣小社に昇格した。</p> <p>本殿は1861(文久元)年建立。方2間(約4m)、高さ約12mの大社造で、向かって右の1間に入入口となる階(きざはし)がある。出雲大社と共に典型的な大社造りの建造物で1966(昭和41)年には島根県重要文化財に指定されている。「(塩)の井」は須佐之男命が自ら塩を汲み、この地を清めたと伝わる。日本海に続いていとされ、日本海が満潮の時は井戸付近の地面に潮の花が吹く。</p> <p>社殿の後ろには樹齢1300年と推定される大杉が、この地を守るかのように立っている。また国の重要文化財として兵庫鎖太刀、島根県指定有形文化財として本殿、能楽面等が指定されており、無形民俗文化財として「須佐神社の念仏踊り」(切明神事)が伝わっている。</p> |  |           |
|        | 地形・地質、生物・生態等  | <p>須佐神社のある出雲市佐田町須佐は原田川と朝原川が合流して須佐川を形成する小盆地をなしている。この地形は、この場所がおよそ1,600万年前の砂岩や泥岩よりなる海成堆積物と同時代に活動した火山岩でできているためであり、堆積岩よりなる部分が河川侵食によって剝作用を受けている。神社は朝原川に沿った砂岩層の平坦面の上に建てられている。</p>  |  |           |
| 写真・図等  |  |   |  |           |
|        | 本殿  |   | 随神門  |           |
| 参考文献   |   |   |  |           |